

未来をひらく スーパーコンピュータ

「京」からその先へ 限りなき挑戦

sickケアから healthケアへ DeNAの挑戦 ~ポスト京に期待すること~



南場 智子 (なんば ともこ)

株式会社ディー・エヌ・エー 取締役 ファウンダー

略 歴

新潟市生まれ。津田塾大学卒業後、1986年マッキンゼー・アンド・カンパニー入社。1988年、マッキンゼーを退職し、ハーバード大学へ。90年ハーバード・ビジネス・スクールでMBA取得、96年マッキンゼーでパートナー（役員）に就任。99年に同社を退社して株式会社ディー・エヌ・エーを設立、代表取締役社長に就任。2005年東証マザーズ上場を果たす（07年東証第一部に指定替え）。11年に、病氣療養中の夫の看病に力を注ぐため、同社代表取締役社長兼CEOを退任、代表権のない取締役となる（現任）。2003年内閣IT戦略本部員、04年規制改革・民間開放推進会議委員などを歴任。昨年初の自著となる「不格好経営—チームDeNAの挑戦」（日本経済新聞出版社、2013年）を出版。

ヘルスケア・医療は、研究開発の発展により大きな進展が見られる分野ですが、同時に毎年増加する医療費、病気になってから対応する対処療法型、個人と専門家の情報格差といった課題を抱えています。DeNAでは、リアル巨大産業にインターネットを組み合わせ、構造改革を起こしていきたいと思い、今年度よりヘルスケア・医療の分野に進出しました。これらの課題に果敢に挑戦し、SickケアからHealthケア（予防・未病）への転換を図り、健康長寿社会の実現に貢献したいと考えています。

そのための第一歩として、東京大学医科学研究所と共同研究を行い、その成果を社会に届けるため、一般消費者向けの遺伝子検査「MYCODE」を今月立ち上げました。「MYCODE」では、遺伝子を調べることで生まれ持った病気の発症リスクや体質を知り、これをきっかけに健康・未病の段階から生活向上・改善できるよう様々な情報を提供しています。今後は、現在分散している、個人のライフログ、生活習慣情報、健診情報・人間ドック情報、お薬情報、遺伝情報などの個人の情報を個人が一括して管理できる状況を作り出し、これに専門的な情報も加え、自分自身で健康をマネジメントする「セルフメディケーション」の実現を目指して行きたいと考えています。

ただ課題もあります。現状では、仮にこれらの情報を集約できたとしても、個人がどのようなアクションを取ったらいいかという点では、まだまだ必要な情報や分析が不足している状況にあるのです。しかしながら、ヘルスケア・医療分野では、大きく2つの変化が起きつつあると思います。一つは、個人の健康・医療に関わる情報がデジタル化・集約化され、これらの情報が何百万、何千万の単位で集積されていくことです。もう一つは、シーケンス技術の進歩により、遺伝解析コストが大幅に低下し、個人が自身の全遺伝情報を手にすることができるようになることです。

これらのビッグデータを組み合わせ解析する研究が進めば、個人の遺伝情報や生活習慣などと疾患のなりやすさや薬のききやすさとの相関関係が明らかになっていくと思われそうですが、現在のスパコンの計算スペック・ストレージスペックでは研究に長時間がかかるなどの課題があると思います。今後、スパコンのさらなる進化で、このような研究が大きく進み、一人ひとりにあったオーダーメイド型の未病・予防活動が可能になることを期待しています。私たち民間企業はその成果を社会に届け、健康長寿社会の実現に一歩でも近づけるよう取り組んでいきたいと思っています。